

(迫田委員提出資料)

平成18年11月1日
(財)かごしま産業支援センター
迫田 昌

1. 今回、検討が進められている「地域資源を活用した新事業活動への支援」については、同様の事業は、各県の支援機関あるいは市町村だけでなく雇用・能力開発機構などにおいても進められております。しかし、いずれの取り組みも、これは自己反省にもなりますが、商品開発支援なら商品開発支援、マーケティング支援ならマーケティング支援とそれ自体が自己完結し、その多くは未消化に終わっている。私共も、例えば、商品開発、その多くは、研究開発事業の一環の中で進められておりますが、商品開発の当初の段階から、出口戦略が大事ということで、専門家を入れるように心掛けているのですが、どうも、それが十分に機能していない。その原因は、一つには、私共にも、当事者である中小企業者にも、マーケティングや販売戦略といった観点からあまりノウハウがないこと、二つには、県内の専門家といっても、どうも人材が限られていること、三つには、そもそも、商品開発から販売までを一貫したものとしての取り組みが弱かったことなどによるものです。従って、商品開発はしたがなかなか売れないというものが多い。中には、もう少し、手を加えるなり、あるいは、うまく販路開拓をすれば結構バケル可能性があるものもあるというのが現状です。

2. こうした中での今回の中小企業庁の新事業です。オールジャパンの事業として、中小企業庁、中小機構等の組織や人材、ノウハウを挙げてハンズオンの取り組みが進められる。地域資源を活用して何か事業を起こしたいと考えている意欲ある中小企業者にとって、また、地域振興に取り組んでいる私共にとっても、大変素晴らしい事業だと考えております。

3. 先日は、有識者から、それぞれ貴重な意見が出されました、地域資源とトップクリエイターを組み合わせた取り組みとか、すべての事業でそうは行かないと思えますが面白い意見も出されました。ただ、私から申し上げたいことは、

(1) 地域資源の定義についての議論もありましたが、当然でしょう。しかし、地域には、どんな資源があるか分かりませんので、地域資源は、前広に捉えて欲しい。

(2) また、地方分権の時代、自治体事業との棲み分け、国の事業としての特色などの意見も出されましたが、それ自体は大事なことです。都道府県の事業とダブルものがあったらよいと思います。良い事例なら、応援する、そういう取り組みをお願いしたいと思います。私共で支援して、商品開発までは行ったが、もう少し、ブラッシュアップして新事業を起こしたいなどの事業計画まで支援の対象に加えて頂けないものか？さらにまた、意欲と熱意のある中小企業というのが前提であります。優良事業を掘り起こすという観点からも、自薦、他薦の推進体制で進められるのが良いのではないかと考えております。

(3) いずれにしても、資料によると4つの事業メニューがある。それぞれが効果的なメニューだと思います。支援対象の発掘、事業の推進にあっては、私共も、精一杯の連携を取らして頂きたいと思えます。

以上、思いつきの所見を申し上げます。参考にして頂けるものがあれば幸いです。